

平成29年度事業計画

社会福祉法人 恵和会
さざんか園小畑デイサービスセンター
小畑在宅介護支援センター
さざんか園ホームヘルプサービス
銚子市東部地域包括支援センター

―はじめに―

介護保険制度は平成12年4月に施行され、5年後の平成17年の見直しでは、介護予防に重点を置いた制度として新たにスタートし、さらに翌年の平成18年には、身体の機能を維持・改善して、出来るだけ介護を必要としない状態を保つための介護予防サービス、地域密着型サービスの実施などが行われてきました。さらに3年ごとの見直しにおいて、介護事業者にとっては、その都度、厳しい選択を余儀なくされてきましたが、介護保険制度発足以来、17年目を迎えた今が一番厳しい状況にあるのは、全国での相次ぐ介護事業所の倒産件数を見れば一目瞭然であると言わざるを得ないでしょう。

しかしながら、そんな「制度ありき」の中で、事業を維持・存続させるための努力は当然惜しみなくしてきましたが、今年度からは、介護予防サービスが「総合事業」へと全面移行する年度となり、益々事業者負担も含め、さらに色々な課題が山積していくことが予測されます。このように、デイサービス・居宅支援サービス・訪問介護と、どれをとっても、在宅系サービスの収支予測は想像以上に厳しい状況が続き、自浄努力をしながらの経営を迫られていくことは今後も変わらないと思います。

その一方で、当事業所においては、地域包括システムの構築の一助を担うべく、昨年10月より「地域包括支援センター」の委託事業を受託したことにより、今後、当該事業も一体となり、地域との繋がりを構築する機会を逃さず、地域に必要不可欠な存在として生き残りをかけていくつもりであります。そのためにも29年度は、もう一度事業全体の見直しを図り、戦術レベルでの活性化を目指します。それには、コンセプトの内部及び外部への浸透を徹底して稼働率のアップを図り、また主力サービスの再構築に向けての目標設定と行動計画の見直しと立案を実施し、さらには成果的なプログラムの導入など具体的な検証と改善を継続的に行い、その他にも営業意識を職員に認識させながらパンフレットなどの広報ツールを改善していきます。こうしたあらゆる方向性からの見直しと改善が必至となる一年になるかと思いますが、ピンチをチャンスと捉え善処していきます。